

様式第2 (第9条関係)

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

3年 11月 24日

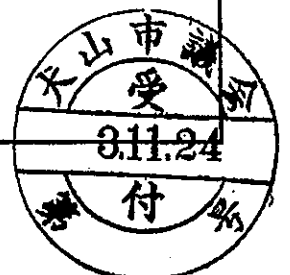
犬 山 市 議 会

議 長 三 浦 知 里 様

議員名 鈴木 伸太郎 ㊟

下記のとおり、出張の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	3年 10月 13日(水) ~ 10月 14日(木)
(2) 場 所	幕張メッセ・(株)ビーマップ・東京ビッグサイト
(3) 形 態	会派 (無会派 鈴木) : その他 ()
(4) 内 容	別紙
(5) 成 果 ・ 提 言	別紙



出張報告 令和3年10月13日(水)～10月14日(木)

10月13日

○農業 WEEK

以前から議会でスモール農業や農福連携について提案してきた。犬山の農業についての私のスタンスは、大規模化やビジネス化ではなく地域課題解決型。高齢者、障がい者、外国人など多様な人が無理せず農業に集まり地域コミュニティを形成していく考え。その視点で、農業の展示会で情報収集した。

農業の主たるフィールドはやはり生産現場、展示会では省力化としてのドローン活用や効率化として施設園芸の提案がほとんどだった。その中で、小さなスペースでオリーブを栽培する提案があり興味を引いた。昨年から大府の事業者がトライしているとのことで、訪問する約束をした。近々伺いたい。

施設園芸でも小規模での展開を提案するブースもあった。補助金制度があればチャレンジする個人がいるかも知れないので、アンテナは張っておく。

小規模農家、家庭菜園クラスの農業をサポートするグッズにも、わずかではあるが新製品があり、「夢のある楽しい農ライフ」的なアプローチを試みる際は役立つ。

2次加工については、犬山でも最近始まった米粉を活用する提案や米加工製品の提案が複数、米以外の農産物の収量が少ない犬山では、やはり米をどう活用していくかが課題解決の一つ。参考になった。一方、スイーツ系は減っていた。真空、包装、ドライなどの機器メーカー、ラベル印刷メーカーからは小規模事業者向けの製品が散見された、私自身、この小規模農家の直売所出荷や6次化のハードルをクリアできるか、さらに言えば、ここで他との差別化を図れるかが、マーケットでの勝負どころと感じている。今後さらに重要視されていくポイントとして押さえておきたい。

販売カテゴリーにおいては、ネットを活用した小規模ビジネスの提案が目立つ。農業従事者の最も弱いところであるので、研究を積み、地域の農業者にアドバイスや提案できるようにしていきたい。

セミナーを2件受講、①イノシシ等の獣害対策を麻布大学の研究者から伺った。食害するイノシシの習性、はこわなの適正な使用方法など、「ただ捕獲すれば良い」だけでなく、「どう退治していくか」を考える必要があると感じた。②北海道雄武町での6次化の取り組みは、勇気づけられる内容、自治体がもっと頑張らないといけないと痛感。

○感染症対策展

幕張メッセで開催された、医療介護感染症等の展示会で情報収集。

感染症対策では、この2年間で定着した建物入り口での消毒、カウンターの仕切り周辺での新商品が提案されていた。入り口の消毒では、コスト削減が可能な製品がいくつかあり、

ここにかかるコストが課題であることの裏付けと感じた。アクリル板越しの会話には私自身も苦勞しているが、双方向通話できるスピーカーの紹介があった。耳が聞こえづらい人には特に有効と思われる。

10月14日

○(株)ビーマップ 杉野社長

(株)ビーマップは、IT インフラを活用したコンテンツサービスで、交通事業者やアイドルグループの販促・広告宣伝等の事業をおこなっている。社長の杉野氏は楽田出身。

・絵本「いるかいけがぎれた」のPR・・・羽黒小学校の読書ボランティア「おはなしクルーズ」の皆さんが中心になって出版した絵本を、杉野氏の関係する方面からPRして頂くことを要望。突然の話なので、すぐに具体的なアクションには繋がらないが、長い目で見ていきたい。

・「大江戸今昔物語」の犬山での活用・・・(株)ビーマップは、江戸時代明治時代の古地図のデータを所有しており、古地図と現代の地図をスマートホン上に重ねて表示できる機能を開発、スワイプすると過去と現在の土地利用の変化が解る。最近NHKプラタモリ他のメディアでも活用されている。社会教育の視点から、自治体や市民と協働でこのアプリを活用する方向性について情報交換した。犬山のような城下町や旧街道が通る街には面白いアプリであり、今後導入を提案していきたい。

○ギフトショー

国内外の雑貨が集まる総合見本市で情報収集を行った。

各地方の産品をアピールするブースが今回は少ない。コロナによる影響か？

クラウドファンディングの特設コーナーが新規で設置されており、さまざまな新規商材が紹介されていた。犬山のように小さな事業者や個人事業主が多く、かつ新しいアイデアで新たな商機を探している若者が多いような街には、このような所と繋げると発展があると感じた。

SDGsを意識した展開は以前よりも強くなってきており、世の中に浸透しつつある様子。ただ、SDGsを語って、本質はそうでない事業もありそのあたりを見極める視座が求められる。環境配慮型商材はバイヤーの興味を引いている様子、環境に恵まれた犬山として、そのようなトレンドを掴んでまちづくりに生かしていくことで、さらに魅力ある、時代にマッチした都市経営に進むのではないだろうか？

従来のギフトショーにはなかった「防災」のカテゴリーで集約された特設コーナーが新設されていた。流行を追う業界でも、防災での視点は見逃せないという事のあらわれであろう。

水でつくる土嚢、通常はコンパクトに収納しておけるポリタンクなど、新商材もいくつもあった。

○まとめ

今回も行政サイドからでは気付かないポイントに行き当たる事ができた。
生涯教育、地域活動、特産品開発など、今後、犬山の事例に落とし込んで、まちづくりに反映させていきたい。

以上